



明治二十八年

中之黒洲伯之裁決文書

西京大本塔
天城月候之塔

養浩堂藏書

早稲田大学図書館
文書27
B 60
1



二十六年四月

二十七年大本塔之廣島より西京に法移之旨
聖上出度及樟年西京に着樟之處に風氣出度
熱之例之旨廿七日に思留傳之旨之旨之旨
七極本之博覽層に之臨幸之旨各々農高務
極内之事々々々々々々々々々々々々々々々々々々
本農相之旨之旨

明治二十八年

三月二十日

二十日 此日李經方入聘書

四月一日

十日 李鴻章與日使談判
皆經方未辦

二日

十一日

三日

十二日

四日

十三日

五日

十四日 露國軍艦上海來

六日

十五日

七日

十六日

十七日	馬関詰印 李鴻章發帆	廿八日
十八日	入長崎 露國軍艦	廿九日
十九日		卅日
廿日		五月一日
廿一日		二日
廿二日		三日
廿三日	岩手縣 夜以終為干渉	四日
廿四日	伊藤齋 縣無事 附録	五日
廿五日		六日
廿六日	山縣旋次 子内 考字品	七日
廿七日	大本營 度島 考	減字 西 考

五月廿七日

五月八日	減字 天機付	五月十七日	神戶送櫻山 考
九日		十八日	考大連河 考
十日		十九日	訪黒田
十一日		廿日	訪勝伯
十二日		廿一日	
十三日	北大坂 考	廿二日	
十四日	高島中 考	廿三日	岩手縣 考
十五日	道齋 考 見高島 考	廿四日	岩手縣 考
十六日	福所 考 神戶 考 高島 考 別荘 考	廿五日	大八送 永山

廿六日	六月五日	六月五日
廿七日	六月六日	六月六日
廿八日	六月七日	六月七日
廿九日	六月八日	六月八日
三十日	六月九日	六月九日
三十一日	六月十日	六月十日
六月一日	六月十一日	六月十一日
六月二日	六月十二日	六月十二日
六月三日	六月十三日	六月十三日
六月四日	六月十四日	六月十四日

肅啓

兩陛下益成機嫌被為遊恐悅至極
 事大順次の席樹の帝清穆被為入欣喜之
 至候御心外相閣下疾く帝全快事申上
 察御在り偏不為邦家異七帝治療少加養良
 祈り上々に従ふ各大臣法落其異状消先
 波長の間に憚即放居可被下以將又今回一
 大出来事減の容易からん次第既最大事局
 締結の事トる際来し実如何計りが古厚
 能く程候と書畫レ難く唯恐痛むに堪へが
 正然自ら御申成行有る候と信し疑ふ事
 則ち將弟の得失前途遠慮忍ぶ可らざる

六月二日 日三十一 月二合一 日廿九 日廿九

養治堂

大洲殿

を忍び所謂膽を忍ぶ袋破紙共か又健い又
健いとも讀み如く忍耐必ぶ事局信定成
就の要旨と權言罷立の一片之表紙抄り
難く取敢へず此の意仕心事申候事
度事柄の備へ又し方暗電信の事申
別事と考へたりわりの供費覽書候後期
に候、いふ如要 草、御意を以て奉り候
廿八年五月二十日 収

黒田清隆

伊藤右理大臣殿下

陸奥妙務左衛門殿下

此御筆次第候下申度事用家より尋り候

新の上は在来者大臣へ長傳御病、折置
女中渡意候じよ

社一寺 尊て東遷身三國同盟と成り



西京天城句

昨身九月以来非常之形勢身頗島尖存
等と多句

天機友素志の方は高は天職を以て身を才
分の遊を差を担を身を才は家

西院下西京市行事は成りりは此際一百
天機何也か多く結ん事を

例下亦用下之事を以て大車之改修也也
素志を海を方を結ん事を

在身を慮を也也何ん事を依を花を也也言を少く操を輝
天機何也か多く結ん事を

黒田伯東筆 十月廿日 謙ニ西田意心仕及也

西京天城日

昨身九月以来非常之形勢身頗島尖存
等と多日

天機友素志の方は何ん職をもとすに才
分の遊を差に持て身をまはすに分

西院下西京市行事は成りりに此際一百
天機何ん分を結ん事に

例下亦用下の事を以て大車に改成せし遊
素志を海を方を結ん事に

此身の慮を以て何ん分を依て志を一言少く持て輝
以て成りるに祈る上に分

廿八年九月廿日 謙に西の意を仕す也

西京天城日

右一紙松生播磨門士の振元と御集
之進運世子膝腹

減



辛卯年正月

十四日晴 大坂より旅金

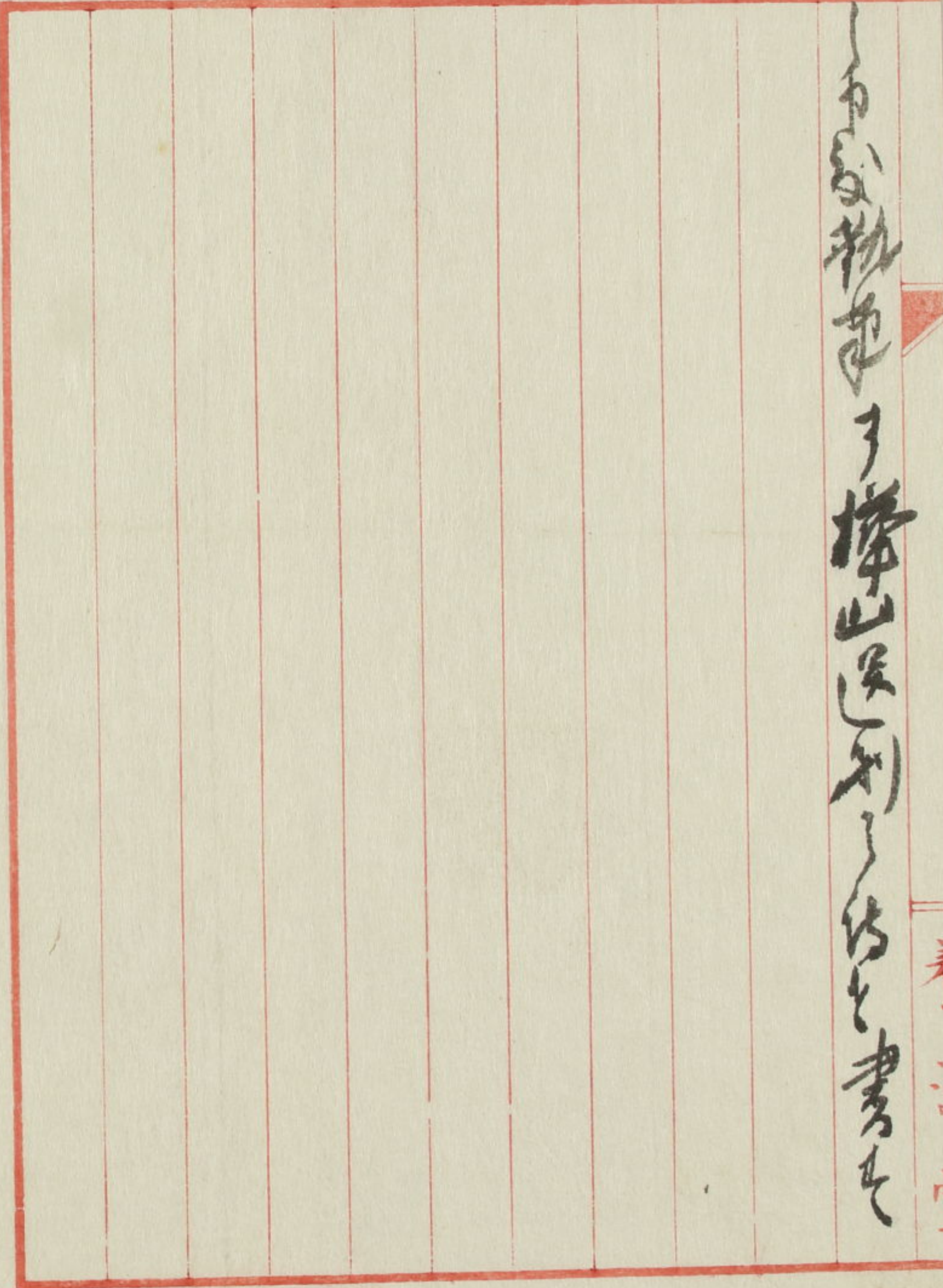
於起公事と榎村直高島中将暇知旅
上瀬東之別首久々上刺の次事崎
山より書候事と云々御會秘初
為馬より尚又電報を為す
一候は梅田の電報局より出立の日と云
候は梅田より出立の日と云

梅山十七日若帆廣島より大山高島
より書候事と云々大山の

梅山

一、御物起、榊山送別、信と書と

養正堂



四侯 伊藤 山縣 西郷 大山 二伯 榊山 陸奥 子 川上 渡部

三伏之節一伏之陽氣を散せし心痛二年
之言ふ處一征清之役畢之今日第一勲功
を賞せしむる四侯二伯二子に授爵せしむ
章を賜ふは征清之役吾邦に未だ
一大事あり余は愚心眼を以て觀るに
四侯の功一侯不足なり黒田伯耆の昨
征清中に留守長官と稱すべし
ハ誰か社稷を守らん悲しむる
ハ皇帝陛下に大本營を後島に移され
ハ皇太子皇孫皇太子皇孫東京城

小治在在隨黑田伯大政府之首府長正
誠、備代於東京、留守長官、久武
相官、出征、又行在所、在內、觀、憂
別、發、從、指、不、意、如、也、務、甚、日、所、
即、ち、黑、田、伯、之、德、也、留、守、之、責、任、を、執、り、
社、稷、を、生、ず、る、重、き、荷、を、負、ふ、に、あ、る、に、
昨、年、平、壤、黃、海、の、戦、幸、に、陪、海、軍、を、捷
と、奏、す、に、鐘、旅、順、咸、海、に、未、く、滅、ぶ、渤、海
之、咽喉、に、未、く、扼、せ、る、時、に、當、り、黑、田、伯、自、ら
進、ん、て、戈、を、執、り、汗、馬、の、勞、を、執、ら、ん、と、申、す、余、

東棧原製

親友所見、有り、馬、関、媾、和、の、際、及、人、て、又、の
樞、密、議、長、に、特、任、せ、め、ら、れ、七、和、戰、同、一、大、事
少、の、特、に、選、擇、し、の、沿、向、の、多、尙、に、一、統、に、此
第、一、勲、功、論、賞、に、特、に、四、侯、と、陸、殿、と、一、侯
と、又、に、誰、に、經、德、補、弼、の、職、に、任、ず、此、一、大、勲、典、と
稱、す、と、罪、誰、に、在、り、世、に、收、從、し、追、叙、せ、ら、れ、七
駟、馬、乃、の、を、な、む、り、し、漢、高、天、下、を、斂、る、賞
功、を、行、ふ、先、に、第、一、の、蕭、何、を、以、り、侯、に、封、曹、參、
之、を、次、に、漢、高、の、明、識、一、時、の、功、を、爲、せ、し、功、
を、別、し、り、し、と、蕭、何、を、侯、に、封、美、談、を、侯、

立憲之新政者時君之政體也
帝之美德也成之也片古日一
皇即天浩歎也

明治廿八年八月廿日
羽前米澤 老書生成下

東橋原製

廿八年三月十日思及之

一万二千艘四艘ヲ西々 藝

黒田ノ者 二十一日話

一万二千艘甲鉄艦

巡洋艦 戦術艦

此金一億四千萬圓

此有之六法四ノ原核を姑く白あ厚く増えり
才英ナリ 船中ノ後ハニシテも外中ニ立テ不結ナリ一己人
運動を運動を運動を

巻一 告

臺宗少文之賦游暑氣自清涼颺忽至今日
拜賜如新矣

又曰並無不諧處蓋律詩有聲病古詩難
亦有音節容以氣為主氣盛則疾徐短長
為下皆宜不讀文然也管窺不足以盡大作
賦情謹叙語神語佩服而已



川上様六日井上
八手マ境キツク

十五年、井上為外務相、使花房朝輝、就我公使館、
十六年、法軍艦隊、由南清、抵之法、兵侵福建、及臺灣、
十七年、我來法、兵与清戰、使使、添朝、鮮、清、兵、以、故、
十八年、我遣伊藤、与井上、清、韓、以、結、約、有、大、津、條、約、
十九年、丁、如、昌、率、遠、速、鐵、艦、水、兵、上、海、
與、查、閱、我、我、償、金、於、彼、徐、承、祖、為、公、使、時、也、
二十年、四月、大、八、員、發、遊、直、隸、保、定、運、池、書、院、
二十一年、以、福、來、德、京、駐、公、使、館、黎、庶、昌、
二十二年、大、八、從、張、廉、卿、於、武昌、江、漢、書、院、
二十三年、大、八、在、武昌、花園、山、黎、庶、昌、任、滿、將、
二十四年、大、八、從、廉、卿、到、襄、陽、鹿、門、書、院、黎、庶、昌、

歸國、接任公使李經方、駐京、此、大、學、士、北、洋、總、
督、李、鴻、章、之、嗣、子、也、自、是、西、國、之、交、外、厚、而、
內、薄、丁、如、昌、率、北、洋、艦、隊、遠、航、六、艘、而、來、橫、濱、
而、國、之、情、益、示、疎、淡、我、艦、隊、亦、赴、渤海、漸、始、交、
涉、李、公、使、以、實、皇、長、歸、國、始、為、接、任、汪、鳳、藻、
公、使、來、聘、大、致、十、二、月、自、襄、陽、歸、曰、明、年、再、將、
從、廉、卿、以、遊、陝、西、西、安、府、蓋、張、老、年、老、下、鄉、
此地也、知有內亂之兆、
二十五年、李經方、再、駐、日、本、改、築、公、使、館、欲、盛、
行、外、交、張、聲、威、先、是、我、邦、實、施、憲、法、創、設、
國會

一哩ハ 廿四町

二哩ハ 廿八町 三哩ハ 卅二町

一米ハ 三三寸

二米ハ 六尺六寸 三米ハ 九尺九寸

百米ハ 五十間

二百米ハ 百五十間

五百米ハ 二百五十間

一千里ハ 六百間

二千里ハ 千間

四千里ハ 二千間

三千里ハ 二千四百六十間

四千里三百二十米ハ 二千四百六十間 三千里我カ 三千六十町 當ハ

上海、金山、浦、對馬、之電線、日本、物、非、不

ラシ、ル、カ、其、部、電、信、會、社、ハ、之、管、轄、一、切、之

本、局、ハ、上、海、の、街、ハ、ハ、シ、シ、グ、セ、ン、レ、リ、人、之、を、其、配、

上海より長崎あり

ハ、人、と、互、に、交、換、一、切、ハ、ハ、シ、シ、グ、セ、ン、レ、リ、以、此、の、接

電、子、ハ、ハ、シ、シ、グ、セ、ン、レ、リ、上、海、電、報、を、我、ノ、所、得、

實、事、ヲ、交、換、一、切、其、信、用、品、レ、リ、虚、偽、ハ、價、直

レ、リ、此、會、社、上、海、分、三、ヶ、月、間、二、十、萬、圓、ノ、所、得、

我、ノ、電、信、局、を、維、持、人、ノ、ス、ト、シ

明治三年七月

二十六年前内務大臣官舎に於て梓山白と訪身面
會英四公使ヨリハ以テ海軍の英心ヲ來レテ其
心ヲ尋テヨリヨリ力ヲ支ル州海軍事件ノ就テ也

英心ノ存意其心不カクハ以テ海軍之強弱公使ノ電

事著者海軍之強弱ハ英心保ル國體也

英心保ル事ハ漢法也誠ニ不思ノ事也

外ハ其心保ル事ハ漢法也誠ニ不思ノ事也

英心保ル事ハ漢法也誠ニ不思ノ事也

英心保ル事ハ漢法也誠ニ不思ノ事也

英心保ル事ハ漢法也誠ニ不思ノ事也

英心保ル事ハ漢法也誠ニ不思ノ事也

英心保ル事ハ漢法也誠ニ不思ノ事也

英心保ル事ハ漢法也誠ニ不思ノ事也

英心保ル事ハ漢法也誠ニ不思ノ事也

英心保ル事ハ漢法也誠ニ不思ノ事也

英心保ル事ハ漢法也誠ニ不思ノ事也

養心堂

告堂

公使主簿之職兼樺山伯之配之也若思河仙
属の周旋あるゆへ

廿九日英心公使より本年書状到り

お心お祈陰に候るは法宗仙雲の事

に在相の毎に家内等向ふの御に云在

甚、疎あつた聊、山内等書し、御に彌

細に主お心仕に、少、細に云に、御

に、若、若、度、力、云、云、御、若、果

幸り、廿九日

ニルカトサロウ

官為御下取

三十年一月廿九日英心公使より新年賀状
お心お祈陰に候るは法宗仙雲の事
に在相の毎に家内等向ふの御に云在
甚、疎あつた聊、山内等書し、御に彌
細に主お心仕に、少、細に云に、御
に、若、若、度、力、云、云、御、若、果
幸り、廿九日
ニルカトサロウ
官為御下取
英心公使より、廿九日、サロウ、取

官為御下取

取

同日也。清公使風節以收在河所設，身甚大，八
不真臨一對持系為設，自分為代，身甚大，八
庚面有改，口其全，身甚大，八
身完卷，謝之改，以有直，身甚大，八
之改，身甚大，八

口月七

甲東書牘跋

此卷書牘，甲東大久保侯之真蹟。所贈羽畢黑田伯
者，末五章則係朝鮮事件。侯之所苦慮一讀
使人起敬。先是，有朝鮮之議，大將西鄉南洲蒙
遣韓使命議不合，上表辭。人莫知踪跡者，
獨羽畢伯察其在小梅村某氏宅間道往見互
悉所言。別南洲書奉使之詩一篇，贈伯不數
日，遂赴魔島云。其詩曰

蒙朝鮮國使命

酷吏去來秋氣清。鷄林城畔逐涼行。須比蘇

武歲寒節。想擬真卿身後名。欲告不言遺子訓。
雖離難北日。舊明盟死。逃魁柄吾能占。起拜
皇城霜。原橫。

明治二十一年十一月廿七日。羽泉伯出此卷見示。
且命予書南洲奉使詩。以代跋。今也。時局艱
難。倍於往日。而巨公俊賢相尋薨亡。獨對遺墨。
慕想感慨。不能禁也。
明治二十一年。青苔栗香。宮島城郎敬書。

奮勵時報、膺り忠實

皇運ヲ賛ク嘗テ帷幕、參多征討、勲ヲ奏
シ夙、邊疆ヲ理メテ開拓、基ヲ定ム樞要ヲ歷
任シテ世ノ重望ヲ負フ、今ヤ溘亡ス曷ソ痛惜、
勝ヘシ茲ニ侍臣ヲ遣ハ、賻賜ヲ齎ラシ以テ吊慰

セシム

從一位大勲位陸軍中將樞密院議長伯爵
黑田清隆柩前

皇帝陛下勅使侍從東園 命ヲ幣歸

奉_レ祭祀料五千圓賜_レ右勅諾_ヲ奉_レ讀燒香_{アリテ}
退出

明治三十三年八月廿八日午前十時

三十三年

葬送當日次第書ノ内

○本郎ノ分

一午前九時三十分

勅使御着

家令扶門外ニ整列奉迎親族黒木男爵

玄関迄出迎、御休所、御誘引(茶菓ヲ饗)

一同時 皇后陛下御使御着

奉迎其他前ニ同シ(玄関ヨリ誘引
折田平内)

次喪主親戚一名附添黒木男爵、勅使并御

使、御前ニ進、御使ノ旨ヲ拜シ退席續テ

賜物ヲ靈前ニ供シ棺側ニ侍立ス

此際遺族後室黒木夫人榎本金八亦棺側

ニ侍立

次親戚一名黒木男爵勅使ヲ靈前ニ御誘引

式了テ御休所ニ御先導

次皇后陛下御使靈前ニ御参進其次弟

勅使ノトキニ同シ御誘引黒木男爵

右畢テ勅使并御使御退出、節奉送手續ハ

總テ奉迎ノトキニ同シ

一午前十時 東宮御使御着

奉迎以下奉送迄ノ手續ハ總テ勅使

并ニ御使ノトキニ同シ

○青松寺ノ分

一午後一時 勅使御着

親族一名折田門外ニ奉迎去、閑迄御

誘引夫ヨリ親族一名榎本男爵御休所

ニ御誘引

一同時 皇后陛下御使御着

奉迎御誘引寺前ニ同シ長谷部辰連

誘引榎本子爵

一皇族方(御代拜共)御会葬ノ節ハ掛負(宮内省ノ人)門外ヨリ御休所迄御誘引

一先着ノ会葬諸君ハ夫々休所へ誘引之事
次着棺

親族ハ其席次ニ據リ直チニ式場ニ着席セシムル事

列附ノ会葬諸君ハ夫々休所へ誘引之事
次式場校正頭ノ上先ツ親任官外國交際官

ヲ誘引ニ次ニ其他ノ會葬諸君ヲ誘引ノ事

次讀經

次焼香案ヲ靈前ニ設ク此際喪主腋坐ニ侍立

次勅使親族榎本子爵ノ誘引ニ依リ御焼香

了テ御休所へ復セラル

次焼香案ヲ靈前ニ設ク

次皇后陛下御使御焼香誘引前ニ同シ

次焼香案ヲ靈前ニ設ク

次皇族方(御代拜共)御焼香誘引掛負長谷部辰連

但勅使以下御退出ノ節奉送手續
ハ奉迎ノトキニ同レ

次吊辭

次燒香案ヲ靈前ニ設ク

次喪主燒香

次島津公爵燒香 誘引掛負
時任為基

次親族順次燒香

此際親族 黒木男爵 榎本金八 會葬諸君ハ
挨拶ノ事

挨拶ノ事

次會葬諸君一同燒香

右畢テ各退散

會葬者長也ノ節挨拶者 黒木男爵榎本金八酒匂常明

舊開拓使長官故黒田伯爵銅像建設同志會趣意書

謹啓故從一位大勳位黒田伯ノ明治ノ元勳タルヤ固ヨリ言ヲ須タス今特ニ其北海道ニ於ケル功績ノ大略ヲ掲ケテ諸君ニ謀ル所アラントス抑モ伯ハ開拓使設置以來拓地殖民ノ重荷ニ膺リ在任十有餘年許多ノ事業ヲ創始經營セラレタリ試ニ其二三ヲ擧クレハ首トシテ道路ヲ開鑿シ航海ヲ獎勵シテ運輸交通ノ便ヲ圖リ教師ヲ歐米ニ聘シ全道土地ノ測量地質ノ調査ヲ成シ及ヒ農作牧畜ノ業土地ニ適スル所ノ良法ヲ講究シ又移民保護ノ法ヲ立テ屯田兵ノ制ヲ設ケ炭鑛ヲ開キ鐵道ヲ興シ農學校ヲ設ケテ需用ノ才ヲ養ヒ其他工業製造蠶絲菓樹等興産ノ諸業ヲ試驗開導シ漁場舊制ノ羈絆ヲ解キ漁業ノ發達ヲ企畫セシノ類其最モ顯著ナル者ニシテ或ハ成績ヲ期年ニ收メ或ハ規模ヲ後來ニ開ク爾來物産日ニ興リ移殖年ニ増シ今ヤ人口殆ント百萬ニ垂ントス是レ豈伯ノ多年辛苦經營ノ結果ニシテ而シテ吾人此地ニ在ル者來住ノ新舊ハ問ハス知ラス伯ノ恩澤ニ浴スルニ非スヤ恨ラクハ伯ノ年未タ甚タ老ヒスシテ薨逝シ今後一層ノ繁盛ヲ見ルコト能ハサルニ至リシヲ茲ニ同志相議シ伯ノ功德ヲ旌表スルカ爲メニ一ノ銅像ヲ道廳下ニ建設シ之ヲ永遠ニ傳ヒテ記念トセント欲ス幸ニ四方諸君子ノ賛同ヲ得テ此舉ヲ完成センコト切望ノ至リニ堪ヘス因テ趣旨ヲ述ヘ以テ照鑒ヲ祈ル敬具

明治三十四年四月

右發起人

- 對馬 嘉三 郎 野津人
- 林 悦三 郎
- 金子 元 藤三 郎
- 柳 子 藤三 郎
- 田村 顯 允 吉 郎

銅像建設費概算
一金壹萬千五百圓也

內譯
金參千八百圓

銅像壽造及運搬費共

右之通リ

計 金壹千貳百圓
金五千五百圓

但銅像高壹丈
但臺地石造周圍鐵
但高壹丈六尺樹木植
流高壹丈六尺樹木植
除水堀及諸鑿
保幕式存及諸雜費

贊助員

子爵 男子爵 男子爵 侯爵 侯爵 伯爵 伯爵
 岩村村 (イロハ順) 谷部 辰 大 通
 家長 堀大 高島 伊達 奈園 山内 小牧 西郷 菊亭 湯池 東久 鈴木 三十一 名
 俊義 連基 敏助 成德 繁雲 業道 季基 禧亮

男爵 男爵 男爵 男爵 男爵 男爵 男爵 男爵 男爵 男爵
 伊井 西時 折田 園田 永野 松野 調所 佐藤 北垣 廣田
 上瀨 寬角 任田 中田 津山 方廣 秀國 武千
 成郎 基郎 內常 賢郎 貫義 丈顯 道揚 秋

